



「放置ゆず」を「地域の宝」へ！



地域をつなぐ小さな力 ～内発的发展力を高めるために～

徳島県立那賀高等学校 地域探究同好会

1. みどり戦略との関連性

(4)① 食品ロスの削減など持続可能な消費の拡大

町の特産品である木頭ゆずの放置・廃棄問題に焦点を当てて活動しており、地元企業と協働で商品開発を進め、販売時に食品ロス、地域課題についての啓発を行う。また、収穫したゆずを校内での循環型社会の教材として取り上げる。ゆず畑の整備・収穫を継続的に行い、未利用資源を確保する。

(4)② 消費者と生産者の交流を通じた相互理解の促進

生産者の声を聞き取り、県内外イベント等での販売時、問題の啓発をパンフレットの配布と併せて行う。また、徳島大学地域実践研究会との協働サークルを設立し、互いの活動に参加することで関係人口を増やし、多様な場で問題の啓発にあたる。

2. 目的

本同好会は、地域課題の解決と、その過程を通じて地方創生を牽引する人財の育成を目指している。

●地域課題の解決と資源の再活用

生産者不足により放置された木頭ゆずが引き起こす獣害や土壌劣化、ゆくゆくは伝統文化の消失に繋がる可能性がある問題に対し、未利用資源としての価値を見出す活動を開始・展開すること。

●教育活動と人財育成

地域を五感で感じ、地域住民と協働することにより、地方創生を牽引する人財の育成を目指すこと。また、地域と学校をつなぎ、地域と学校の魅力化を推進し、その核となる人財を育成すること。

●社会への啓発と理解の促進

特産品を取り巻く問題の啓発を行い、地元高校としても地域課題として認識してほしいという願いがあること。また、海外への輸出も行われている木頭ゆずについて、海外の方向けの広報も行うこと。

3. 取組内容

●放置ゆずの収穫・畑の整備

生産者減少に伴い放置されたゆず畑の環境整備や、継続的な収穫に取り組んでいる。徳島大学地域実践研究会“NOROSHI”との協働サークルを設立し、互いの活動に参加している。また、地域おこし協力隊や地域内外の同世代（高校生、高専生、大学生）との繋がりを活かした活動も展開している。

●未利用資源活用・商品開発

収穫したゆずを、調理実習や総合的な探究の時間で余すところなく活用し、循環型社会の構図を校内に啓発している。ゆず果皮や森林クリエイト科の実習で出たカンナくずの新たな利用法を考え、化学実験に利用している。地元企業と協働し、廃棄されるゆずの果皮を使った「ゆずコンフィ」を開発した。

●啓発・販売活動

商品化した「ゆずコンフィ」を地域イベントや食育全国大会、マルシェ等で販売し、木頭ゆずを取り巻く諸問題を消費者の方々に広く啓発している。県外での販売時には、外国人客も多く、パンフレットは日本語版と英語版を用意し、コミュニケーションを図っている。

4. 結果・これから

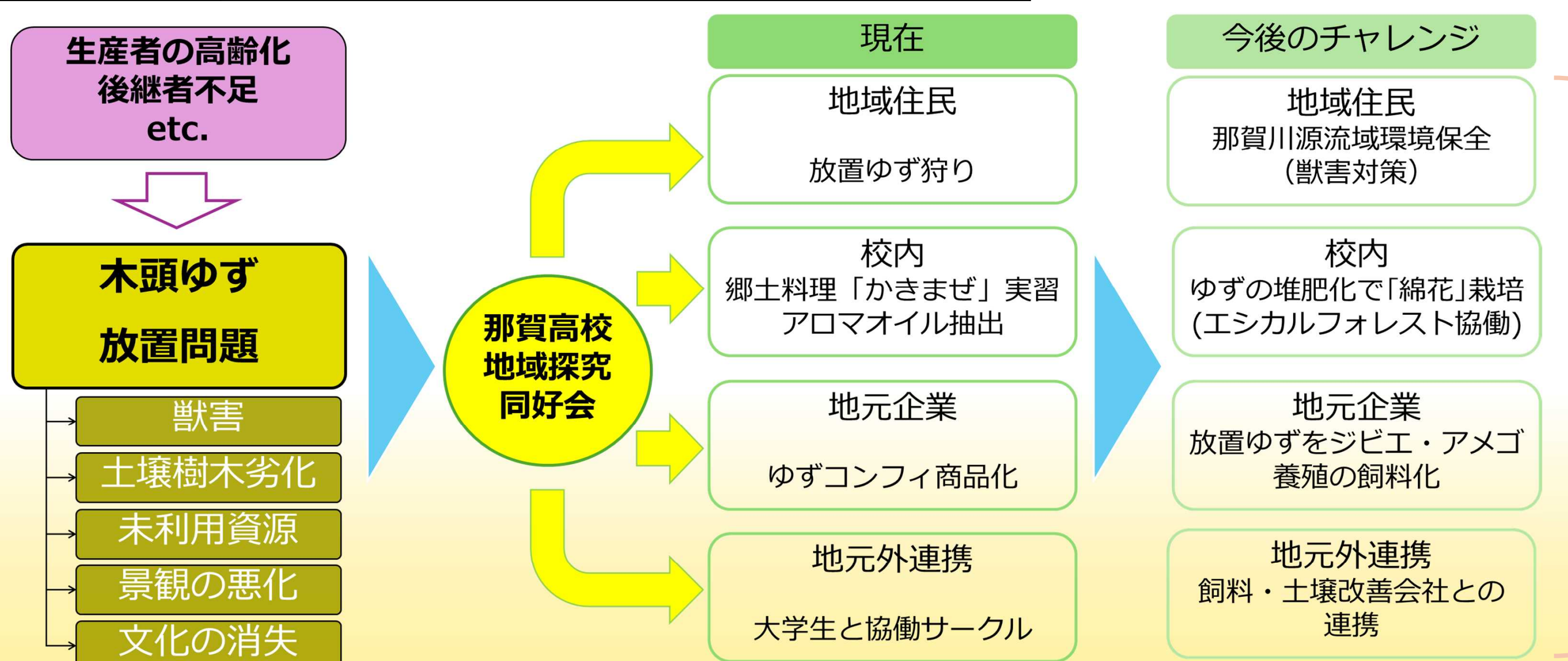
●活動規模の拡大

項目	単位	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度 (11月現在)
地域内イベント 参加回数	回	3	11	18	22
		地域内イベントへの参加や、協働する回数が増加し、授業にも取り入れられている。			
地域外イベント 参加回数	人	1	2	5	10
		地域内イベントを経験した生徒たちが、地域外へも向かうようになってきた。			
地域内イベント 参加人数	回	5	8	16	23
		ボランティアなどを含め、近場のイベントに積極的に参加する人数が増えた。			
地域外イベント 参加人数	人	3	5	10	15
		地域外の探究活動に、出向く生徒が増加している。			
体験入学に参加 した県外中学生	人	1	2	4	8
		地域・学校の魅力を発信できるようになり、県外生の来校が増加している。			

●ディスカバー農山漁村の宝アワード 地方奨励賞(R7年度)

●教育活動への波及

同好会の活動を通じてつながった縁が、那賀高校教員間で共有される「人財バンク」に組み込まれ、授業内で地域連携が図れる仕組みを構築している。



* 今後のチャレンジについて

これまでの活動をとおして出会った方々や企業との交流の中で生まれた次なるステップである。少しずつ実現し、循環型社会の構図を町、学校に根付かせ、地域課題の解決に貢献すべく引き続き活動していく。